

平成25年度 (上戸祭) 小学校 学校評価書

1 教育目標 (目指す児童像含む)

基本目標：心身ともに健康で日本及び国際社会に貢献できる人間の基礎的な資質を養う。

＝ 心身ともに健康でたくましく、創造力と実践力に満ちた、心豊かな児童の育成 ＝

自分や他人を大切にする子ども

進んで学ぶ子ども

たくましく生きる子ども

2 学校経営の理念 (目指す学校像含む)

＝ 合言葉：「学ぼう 遊ぼう 友だちと」 ＝

人間尊重の精神を基盤としたあらゆる教育活動を通して、学校教育目標に示された児童の育成を目指す。そして、児童が、社会の中で自分の能力を発揮し自己実現できるようになるために、「できなかったことができる、分からなかったことが分かる」ように、児童と教師と学校の power up を図る。

3 学校経営の方針 (中期的視点) ※地域学校園内で共通する方針は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) 児童の power up のために、個に応じた指導を充実させるとともに、保護者と連携し、家庭学習の習慣化を図る。
- (2) 児童の power up を支える教師の power up のために、校内研修を計画的・継続的に実施し、授業力の向上を図る。
- (3) 教師の power up を支える学校の power up のために、地域や保護者への情報提供と地域の教育力を生かした取組の推進を図る。

4 今年度の重点目標 (短期的視点) ※地域学校園内で共通する目標は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) 学校運営
 - ・ 児童が夢と希望をもって学校生活を送れる、保護者と地域に信頼される学校づくり
- (2) 学習指導
 - ・ 自分の考えや思いを豊かに表現しながら、学びを広げるために、互いの意見を伝え合い、学び合うことのできる児童の育成
 - ・ 互いの意見を生かし主体的に活動する学級集団づくり
- (3) 道徳教育 (児童生徒指導)
 - あいさつと言葉遣いを重点とした、望ましい生活習慣と正しい判断力の育成
 - ・ 互いのよさを認め合い、他人を思いやることのできる児童の育成
- (4) 健康 (保健安全・食育)・体力
 - ・ 友だちと豊かに関わりながら進んで運動に取り組み、健康・体力の向上に励む児童の育成
 - ・ 教科体育や体育的行事等の工夫による、運動の日常化

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※地域学校園内で共通する取組は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上	1 上戸子どもまつりなどの児童会活動を充実させたり、ロング昼休みを設定したりして、児童の仲間づくりや集団遊びを支援します。	B	【達成状況】 <u>児童の肯定的回答 92.2%</u> <u>保護者の肯定的回答 96.6%</u> ・年間5時間の児童会行事だけでなく、業間や昼休みに各委員会が率先した集会・交流活動を企画・運営しており、児童にとって活気のある学校づくりができています。 ・ロング昼休みには学級の共遊の時間を設定するなど、児童の仲間づくりを効果的に実践している。 ・全職員が、年2回の教育相談週間だけでなく、日常の児童との交流・声かけを意図的に実施している。 ・全職員が、自学級児童以外の児童についても様々な情報を共有できる雰囲気ができており、それが児童を賞賛する契機になっている。 【次年度の方針】 ・今後も、適切な日課のもと、児童会活動やロング昼休みを有効活用し、児童にとって魅力ある活動を推進していく。 ・児童の長所を見取り伸ばしていくという観点で職員間で情報交換しやすい場を継続していくとともに、今後も児童賞賛を積極的に行っていく。
		2 児童一人一人の話をよく聞き、声を掛け、よいところを認め、伸ばす指導に努めます。	B	

A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	1 ねらいを明確にした分かる授業を行い、ティームティーチング等も活用して、きめ細かい指導に努めます。 2 教職員は、明るいまいさつを率先垂範し、丁寧な言葉遣いや誠実な対応を心掛けます。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 96.8% 保護者の肯定的回答 96.4% ・授業の初めに本時のねらいを提示し、学び合い活動を効果的に取り入れて分かる授業の実践に努めた。また、授業の進め方のマニュアルを参考に、全教職員が共通認識のもと、授業を行うように心がけてきた。 ・来校者への明るいまいさつや児童への言葉かけが適切に実施できている。特に、問題が生じた場合の対応や保護者への説明などについては、職員が協力して解決に向かえる体制ができている。 【次年度の方針】 ・今後、ティームティーチングのさらなる有効活用を図っていく。 ・今後も人権感覚を大切にしながら、より丁寧な対応、率先垂範を実践していく。
A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上	1 「かみとよい子のやくそく」を確認したり、児童の実態に応じて指導すべきポイントを絞り込み毎月の生活目標を設定したりして、集団生活の中できまりを守っていかうとする態度の育成を図ります。 2 登下校時や上戸タイム、朝の会や帰りの会など、さまざまな場で児童の規範意識を高める指導をしています。 ○3 地域や中学校等と連携して、あいさつ運動を展開します。	A 【達成状況】 全体の肯定的回答 91.8% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 93.7% 地域住民の肯定的回答 92.3% 児童の肯定的回答 81.0% ・生活のきまりに関しては、規範意識の低い様子が時々見られたため、状況に応じて、校庭の使い方や遊び方等について、教員間の共通理解を行い、各学級において指導の充実を図ってきた。 ・宮っ子チャレンジや地域学校園内の中学校との連携により、あいさつ運動を2回実施することができた。 【次年度の方針】 ・きまりやマナーへの規範意識を高めるために、教職員用の「かみとよい子のやくそく」だけでなく、児童及び保護者に周知する文書も作成したり、学期ごとに振り返りをさせたりして規範意識を高めていく。 ・地域住民の肯定的回答を高めるため、児童会と連携し、児童が中心となってあいさつ運動をするなど、児童の意識の徹底を図る。 ・地域学校園内の中学校との連携によるあいさつ運動を、さらに活発に展開していきたい。

A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童、保護者の肯定的回答 80%以上	1 漢字、計算、音読などを発達段階に応じて取り入れ、基礎・基本の定着を図ります。 2 分かる授業のための教材研究に努め、自分の思いや考えを豊かに表現させながら、学び合いを重視した授業を展開します。 3 算数におけるティームティーチングの実施や、かがやきルームにおける個別指導の充実などにより、児童一人一人に応じたきめ細かな指導に努めます。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 92.4% 保護者の肯定的回答 90.2% ・宿題・自主学習・小テストなどを通して、児童の基礎基本の定着を図った。朝のはげみ学習において「計算大相撲」を実施することにより、計算力が向上してきた。 ・「学んだことを生活の中で活かすことのできる児童の育成」をテーマにした算数の授業研究会を通して、教材開発・発問の工夫・学習形態の工夫について全校体制で研究を進めることができた。 ・かがやきルームにおいて、個別指導の充実を図ることができた。 【次年度の方針】 ・学校課題である算数科の授業を通して、引き続き教材研究・授業研究を進め、互いの学びをより深め合える授業の実践を目指すとともに、より効果的できめ細かい指導を行っていく。
A5 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上 全体アンケートの「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 授業を計画に沿って適切に実施し、「ザ・チャレンジ」「修学旅行」「冒険活動教室」などの学校行事を子どもの主体性を大切にして実施します。 2 学校行事や教育活動についての反省をもとに今後の方針を検討するなどして、教育活動の工夫・改善を図ります。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 90.9% 教職員の肯定的回答 100% ・昨年度検討した行事も時期・内容とも改善され、適切な日課のもとバランスよく実施できている。各行事においては、高学年を中心に主体的な活躍の場が設定されていた。 【次年度の方針】 ・今年度の反省点・改善点を中心に検討を加え、今後も児童の主体性を重視した教育活動を推進していく。

A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。

【数値指標】

全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している」
⇒保護者・地域住民の肯定的回答80%以上

A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。

【数値指標】

全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」
⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答80%以上

1 学校自由参観や児童会の活動、各学年で行う出前授業、文化的行事など、様々な機会を捉えて保護者の参加を促し、学校を保護者や地域に公開します。

2 学校だよりの地区回覧、学年だよりのなど各種のたよりの配付を行い、学校の取り組みや児童の姿を、分かりやすく紹介します。

1 保護者や地域の各種団体、企業等の協力を得て、児童が人と関わりながら体験的に学ぶ機会を充実させます。

2 地域コーディネーターと連携し、地域の人材を積極的に活用して、教育活動を充実させます。

3 児童の安全を守るために、PTAや地域ボランティアと協力して、朝の登校指導や集団下校指導・「子ども110番の家」や通学路における危険箇所の確認を実施します。

【達成状況】

保護者の肯定的回答 98.8%

地域住民の肯定的回答 100%

・年5回の授業参観・自由参観をはじめ、親子ふれあい活動、音楽集会等を実施し、教育活動の様子を適宜公開してきた。
・校長先生の細やかな学校だよりの発行、毎月の学年だよりの配付、ホームページの適切な更新により、常に学校の取り組みが地域・家庭に発信されている。

【次年度の方針】

・バラスのよい学校公開の実施と、各種だよりの定期的発行、ホームページの適宜更新を継続して実践していく。

【達成状況】

保護者の肯定的回答 97.1%

地域住民の肯定的回答 92.3%

教職員の肯定的回答 100%

・総合的な学習の時間等で、地域の人材をゲストティーチャーとして活用した。
・書道、家庭科等の教科だけでなく、朝の活動をはじめ環境整備に至るまで幅広いボランティアの方々の協力をいただき、充実した活動が実施できた。
・朝の登校指導や集団下校指導・「子ども110番の家」確認・通学路における危険箇所の確認を実施し、児童の安全確保を図ることができた。

【次年度の方針】

・より効果的な学習活動・学校環境の向上に向けて、ボランティアと綿密な打ち合わせを行う。
・さらに、より充実した学習環境、生活環境の向上のため、地域コーディネーターとの連携を深めていく。
・次年度も地域の協力を得て、早い時期での「子ども110番の家」や通学路における危険箇所の確認、引き渡し訓練を実施する。

A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」 ⇒全体の肯定的回答80%以上	1 清掃用具の使い方や清掃の仕方についての指導に加えて、全校クリーン活動や清掃強化週間の実施などで、自分たちの学校を自分たちできれいにしようとする意識を高めています。 2 潤いのある環境づくりのため、地域ボランティアの協力を得て、普段の清掃だけでは十分に手が回らない場所の清掃活動、花壇整備、校内掲示の充実に努めます。	B 【達成状況】 全体の肯定的回答 93.3% 教職員の肯定的回答 96.8% 保護者の肯定的回答 95.6% 地域住民の肯定的回答 92.3% 児童の肯定的回答 88.4% ・美化委員会の児童や清掃班班長への清掃指導をすることで、全校的に児童の美化意識が高まった。 ・日々の清掃活動と清掃、花壇整備、壁面装飾などのさまざまなボランティアの協力を得て、校内環境が充実した。
B1 地域協議会を核として、児童が様々な体験ができる温かい学校づくりを進めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業と連携協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答80%以上 全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	1 地域コーディネーターと連携を図り、地域の人材やボランティアの協力を得て、豊かな体験活動を展開します。 2 地域・家庭・学校が連携して、「全校クリーン活動」「ふれあい給食会」「感謝の集い」を実施し、地域を愛する心を育てます。 3 宮っ子ステーション「かみタマ」との連携を図り、児童の放課後や長期休業中の多様な体験活動、居場所づくりに努めます。	B 【達成状況】 全体の肯定的回答 94.2% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 97.1% 地域住民の肯定的回答 92.3% 児童の肯定的回答 87.3% ・地域コーディネーターの方をはじめ、ふれあい地域協議会の全面的な協力のもと、地域の方と多くの行事を実施し、「地域とともに歩む学校」を実現している。 ・「かみタマ」の活動に多くの児童が参加し、充実した放課後の活動が実施されている。 B 【次年度の方針】 ・今後もふれあい地域協議会との連携を図り、ボランティアの方の効果的な活用や「かみタマ」の活動への協力を通して、様々な体験活動を実施していく。 ・ご協力いただいた方々への感謝の気持ちを表す場として「感謝の集い」を実施しているが、ほぼ毎日お世話になっている交通指導員、給食調理員に対しては、児童会を中心に個別に感謝の気持ちを伝える集会を実施する方向で検討する。

教 育 活 動 の 状 況	生 活	○A9 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒全体の肯定的回答率 80%以上	○1 マナーアップ委員会を中心にあいさつ運動を実施したり、地域の方やPTA、地域学校園と連携した取り組みを実施したりして、学校内・外での元気なあいさつの習慣化を図ります。 2 教職員が率先して、明るいあいさつに努めます。	A 【達成状況】 全体の肯定的回答 86.7% 教職員の肯定的回答 93.5% 保護者の肯定的回答 84.5% 地域住民の肯定的回答 76.9% 児童の肯定的回答 91.8% ・マナーアップ委員会によるあいさつ運動や教室での指導をおこなっているが、個人差が大きく、特に地域の方へのあいさつが習慣化されていない。 ・教職員自ら明るいあいさつの率先垂範に努めた結果、教職員や友達同士への、元気なあいさつはできるようになっている。 【次年度の方針】 ・マナーアップ委員会のあいさつ運動を更に充実させ、特に地域の方への元気なあいさつの励行に取り組んでいく。 ・地域学校園内の小・中学校と連携し、あいさつ運動を、さらに活発に展開していきたい。
		○A10 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、大人に対して適切な言葉遣いをしている」 ⇒全体の肯定的回答率 80%以上	○1 時・場・相手に応じた適切な言葉遣いについて粘り強く指導に努めるとともに、家庭や地域での指導の協力について働きかけていきます。 2 友達を「さん」付けで呼ぶなど、相手を思いやる言葉遣いの習慣化を図ります。	B 【達成状況】 全体の肯定的回答 82.6% 教職員の肯定的回答 90.3% 保護者の肯定的回答 77.6% 地域住民の肯定的回答 76.9% 児童の肯定的回答 85.6% ・時と場と相手に応じた言葉遣いの意識は高くなってきており、地域住民の肯定的回答が10%以上向上した。まだ保護者の肯定的回答が低いので、今後も適切な言葉遣いについて、家庭や地域にも協力を呼びかけていく。 【次年度の方針】 ・相手を思いやる「ふわふわ言葉」を日常的に使うことで、相手を気遣いながら名前を呼んだり、会話をしたりするなど、思いやりのある心の育成を図っていく。

B2 友達と仲良く生活し、楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るいきいきとした雰囲気である」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	1 縦割り班の活動を充実させ、異学年の交流を図ります。 2 児童についての情報交換や教育相談、いじめアンケート（年間4回実施）、Q-U検査の結果の分析活用などにより、児童一人一人に目を向けた指導に努めます。	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.2% 保護者の肯定的回答 96.6% ・わかば給食や上戸子ども祭りや各委員会のイベントなどで交流を図ることをとおして、児童の自主性を育てることができた。 ・職員会議後に児童に関する情報交換を行ったり、いじめアンケートやQ-U検査の結果から児童の悩み・学級集団の特徴や傾向を把握したりすることをとおして、児童理解が深められた。 【次年度の方針】 ・児童についての情報交換や教育相談、いじめアンケート（年間4回実施）、Q-U検査の結果の分析活用などにより、児童一人一人に目を向けた指導を継続して行っていく。 ・一人一人の児童が居がい感をもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、ほめたり言葉掛けを行ったりすることに努めるとともに、悩みを持つ児童が教師に気軽に話ができる体制づくりに心掛けていく。
A11 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 健康・体力	1 「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえ、体育の授業において、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、ソフトボール投げの能力を高めるための補強運動を行います。 2 夏休み特別水泳教室の実施に加えて、持久走がんばりカード、縄跳び・水泳検定カードを活用し、児童がめあてをもって運動に取り組めるようにします。 3 竹馬、一輪車、縄跳びジャンピングボード等を有効に活用し、児童が楽しんで運動に取り組めるようにします。 4 上戸タイムや昼休み時における屋外遊びを奨励します。	【達成状況】 児童の肯定的回答 90.3% ・元気っ子健康体力チェックの結果をふまえて体育の準備運動や補強運動を工夫し、苦手としている運動能力の補強に努めることができた。また、上戸タイムなどにおける外遊びの奨励やロング昼休みの共遊活動を通して、外で遊ぶ児童が増えた。 【次年度の方針】 ・1については、引き続き体育の授業に補強運動を継続して行い、基本的な動きや筋力を高めていく。 ・2については、引き続き各種検定カードを活用し、児童がめあてを持って運動に取り組めるようにする。 ・3については、児童会を中心に竹馬および一輪車の貸し出しを行うとともに、校庭にジャンピングボードを16台設置し、運動の日常化に努める。 ・4については、スポーツ委員会主催のバトン投げ大会を実施し、児童の関心を高めるとともに体力の向上を図っていく。

A12 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	○ 1 食育だよりを毎月発行したり、旬の食材を活用した季節感のある給食を実施したりして、食の大切さについて啓発を行います。 2 食物アレルギーのある児童の保護者との面談及び対応策の検討をして、個に応じた望ましい食習慣を育成します。 3 教科における「食に関する指導」や給食時の栄養指導等を実施するとともに、各種たよりで取組の様子を伝えていきます。	【達成状況】 児童の肯定的回答 80.4% 保護者の肯定的回答 73.9% ・食育だよりを毎月発行したり、旬の食材を活用した季節感のある給食を実施したりして、児童が好き嫌いなく、栄養のバランスを考えて食事ができるようにした。 ・食物アレルギーのある児童の保護者との面談や対応策の検討を実施した。 【次年度の方針】 ・教科における「食に関する指導」については栄養士と連携して実施する。 ・各種たよりで継続的に啓発する。 ・給食委員会の活動などで、調理員の苦労や思いなどを児童全体に啓発し、感謝の気持ちの醸成を図る。
B3 安全と健康管理に気をつけ、元気に生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、安全と健康に気をつけて生活している」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	1 健康診断後に治療依頼の連絡をしたり、保健だよりを発行したりして、健康な生活習慣育成のための情報を提供します。 2 肥満傾向児童に対して、養護教諭と学校栄養職員が栄養健康相談を継続して実施し、家庭と連携して健康な生活習慣の育成を図っていきます。 3 自分の命を自分で守ろうとする意識を高めるため、学年に応じた安全指導を行い、避難訓練や、不審者対策、交通安全指導を定期的に行います。	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.4% 教職員の肯定的回答 87.1% 保護者の肯定的回答 91.3% ・健康診断の結果を受けて受診のすすめを出したところ、担任の指導や保護者の協力のおかげで、耳鼻科健診の受診率は90%を超えた。その他の検診の受診率についてもまずまずであった。 ・本年度は5つの学年で給食後の歯磨きを実施することができた。 【次年度の方針】 ・う歯のないもの、処置完了者の割合が増えている。次年度は全学年給食後の歯磨きを実施する。 ・肥満傾向児童への健康栄養相談をさらに充実させる。 ・安全教育については、日常の保健指導や各種訓練を通して、具体的な例を示しながら、功繰り返し指導し、自分の命は自分で守ろうとする意識を高めていく。

A13 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 自分の考えや思いまとめて書いたり、発表したりして豊かに表現できる児童を育成します。 2 発達段階に応じて、「発表の仕方」や「話の聞き方」のポイントを示し、互いの意見を伝え合い、学び合う活動を効果的に取り入れて授業を行います。	【達成状況】 児童の肯定的回答 89% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 89.3% ・算数でのノートのとり方や自分の考えをまとめるための言葉のマニュアルを作成し、全教職員の共通理解のもと、授業を行うことができた。 ・朝の会や学級活動、ことばの時間のスピーチの実践を通して、自分の考えをまとめて話す力が育ってきている。 【次年度の方針】 ・授業の中で、児童同士で考えを深めていけるような場の設定を行い、話し合いの活性化を図っていく。
A14 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	1 話をきちんと聞く態度を身に付けさせるため、授業や行事などの集会活動において、日常的に聞き方の指導を行います。 2 児童が安心して自分の考えを持ち、発表し、友だちの考えや気持ちを尊重できるよう、授業の中で話し合い活動を積極的に設定します。	【達成状況】 児童の肯定的回答 81.7% 教職員の肯定的回答 100% ・朝会や集会時に静かに集合し、正しい姿勢で最後まで集中して話を聞くことができるようになった。 ・授業の中に、ペア学習・グループ学習・全体での話し合い活動を効果的に取り入れ、考える場や練り合いの場を意図的に設定するなど、指導方法を工夫してきた結果、意見交換がスムーズに行えるようになってきた。 【次年度の方針】 ・引き続き、活動の目的に応じて学習形態を工夫しながら、積極的な話し合い活動の充実を図っていく。
B4 家庭と協力して、家庭学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 学校独自アンケートの「児童は、毎日、家庭学習をしている」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 家庭学習の手引きに基づき、学年に応じて家庭学習の内容と方法について具体的に示して指導するとともに、保護者の理解・協力を得て、家庭学習の習慣化を図ります。 2 児童の提出した家庭学習の課題やノートによく目を通し、認め励ますことで意欲づけを図ります。	【達成状況】 児童の肯定的回答 80.2% 教職員の肯定的回答 87.1% 保護者の肯定的回答 71.2% ・本年度、家庭学習における引き続き、家庭学習の手引きを配付し、懇談会等で家庭学習の内容や方法について示しながら実践している。 ・本年度、家庭学習における認識が児童と保護者で違いがあった。 【次年度の方針】 ・家庭学習の時間等を、地域学校園で共通理解を図りながら、各自が計画を立てて家庭学習に取り組めるよう、支援していく。 ・家庭学習の捉え方について、保護者及び児童に周知徹底を図る。

本校の特色・課題等	B5 栄養士と調理員が連携して、おいしい給食を供給し、食育の充実に取り組んでいる。 【数値指標】 親子給食時のアンケート ⇒保護者の肯定的回答80%以上	1 地域の協力により、旬の食材を活用し、季節感のあるおいしい給食を提供します。 2 調理員や地域学校園の栄養士と連携し、魅力ある給食を提供することに努めます。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 80.4% ・今年度は、1・2・6年で「親子給食」を実施した。給食試食後、「旬の食材を活用し季節感のあるおいしい給食を提供しているか」というアンケートを行い、自由に給食に関する意見感想を書いてもらったが、肯定的なものがほとんどだった。 【次年度の方針】 ・安全・安心・おいしい給食を引き続き提供する。 ・食物アレルギーの対応については、保護者との面談を十分に行い、栄養士・担任・養護教諭・調理員の連絡を密にし、事故のないよう努める。
	B6 読書活動の充実に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、本をよく読んでいる」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上	1 朝の読書の時間や地域ボランティアによる読み聞かせ活動の充実を図り、読書活動を推進します。 2 「ファミリーブック」の実践等を通して、家庭読書の充実を図ります。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 88% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 78.3% ・朝の図書の貸し出し、ファミリーブックの実施、読み聞かせボランティアの活用、読書週間での様々な企画等を通して、児童の読書量が増えてきている。 【次年度の方針】 ・家庭の理解と協力を呼びかけながら、今年度の効果的な取り組みを継続し、さらに読書の有用性や楽しさを味わえるよう配慮して、読書指導の充実を図っていく。

〔総合的な評価〕

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

「学校運営面」

- ・PTAやふれあい地域協議会の全面的な支援・協力を得て、多くのボランティア・地域人材の活用が積極的に図られ、適切な学習環境、生活環境の充実につながっている。
- ・各行事の実施時期、内容ともに適切な反省、検討のもと改善が図られている。
- ・各種だよりの発行やホームページの更新により、学校の取り組みが積極的に地域・家庭に発信されている。

「児童指導面」

- ・児童と触れ合う時間の確保やQ-U検査の分析、いじめアンケートの定期的な実施、教育相談・情報交換等をとおして、いじめや問題行動の早期発見・早期対応に努めてきた。一人一人の児童の理解と十分な実態把握に努め、さらに積極的・組織的な児童指導の充実を図っていく。
- 地域学校園での今年度の目標である、「明るく元気なあいさつと丁寧な言葉遣い」、「いじめの防止」を合言葉に、本校では実践に努めてきた。学校でのあいさつや教師への言葉遣いについては、おおむね好ましい状況になってきているが、保護者や地域の方へのあいさつや学校外での保護者への言葉遣いについては、まだ十分ではないため、今後も保護者や地域の方と連携し、継続的に意識の向上に取り組んでいきたい。
- ・学校生活のきまりや交通ルール、生活のマナーについては、地域の方の肯定的回答がまだ不十分な面もあるので、児童一人一人のマナーへの意識を高めていけるよう、継続して指導に当たっていきたい。

《体力・健康面》

- ・休み時間や放課後に進んで運動をすると答えている児童の割合は高くなっている。平成25年度の新体力テストの結果から、本校児童は、「握力」「長座体前屈」、「ソフトボール投げ」の能力が、全国平均よりも低いことが明らかとなった。そこで、学校全体が共通理解のもと、教科体育時に継続して補強運動を行っていくこととする。
- ・安全でおいしい給食の提供と食育の推進に努めてきた。食物アレルギーの対応を丁寧に行いながら、より多くの児童が好き嫌いなく給食を食べられるよう、食に関する指導や食の大切さについての啓発を進めていく。
- ・健康診断後の受診率が高い。今後も家庭の協力を得ながら健康診断の事後指導に当たっていききたい。
- ・地域の協力を得て、避難訓練や危険個所の確認を行った。今後も続けていきたい。

《学習面》

- ・算数を中心に基礎学力の向上をねらい教材開発を行ってきた成果があらわれ、基礎基本の定着が図られてきている。今後もかがやきルームの活用を通して個に応じた指導の充実に努めていく。
- 落ち着いた学習に取り組めるようになり、話の聞き方も上手になってきている。学習形態の工夫により、話し合い活動も活発に行えるようになってきた。
- 家庭学習についての意識に児童と保護者で多少の違いがある。家庭学習のやり方や時間について今後も学年に応じた助言や指導を行っていく必要があると思われる。
- ・読書活動が活発に行われており、児童の読書量も増えつつある。

6 学校関係者評価

《学校運営面》

- ・担任以外の教職員に声をかけられることは、児童にとってうれしく励みになることなので、これからも児童賞賛を積極的に実践してほしい。
- ・職員室の垣根が低く、職員室に入ると職員が明るく声をかけてくれる。保護者・地域の人も、職員室に入るときは明るくあいさつをしたり声をかけたりすることが大切だと思う。校長室が開放的になっていてよい。校長自ら声をかけてくれて、教職員・保護者・地域が一体となって学校を盛り立てていこうとする意識が高まる。
- ・学校では、授業、学校行事など、機会をとらえて、やるべきことをしっかりと教えてほしい。我慢を教えることも大切である。上戸祭小学校のよさを上級生から下級生に伝えていけるとよい。
- ・「しつけは家庭から」だと考える。子どもの教育だけでなく親への啓発も大事である。
- ・学校だによりにより、学校の様子を地域に知らせることができている。地域の人たちも学校だよりをよく見ている。地区回覧は白黒だが、ホームページだとカラーで見られることを地域の人たちにも広く知らせるようにしたい。
- ・「全校クリーン活動」は、校外の公園、道路などのクリーン活動を行うときには、名称の工夫をするよい。(学校の中だけで行っているものと混同してしまう。)

《児童指導面》

- ・学校の中だけでなく、学校周囲の環境整備も大事である。市に年2回の協力を依頼、それ以外は地域協議会で協力している。
- ・危機意識を高めることと地域であいさつをすることには矛盾もあるが、顔見知りの人にあいさつをすることは大事である。地域の人からあいさつができるとよい。自治会の会議であいさつを呼びかけるなどして、地域全体で協力したい。また、あいさつのたすきも活用して行ってほしい。

《体力・健康面》

- ・地域では、放課後、学校の校庭や公園で児童が遊んでいる姿をよく見かける。遊びの日常化が図られている。
- ・学校に地域の備蓄品が入るようになるので、食物アレルギーのある児童のために、アレルギー対応の備蓄品も考えていきたい。
- ・引き続き、歯磨き指導をしっかりやって、むし歯予防に努めてほしい。

《学習面》

- ・これからも、児童に目標をもたせ意識を高めて、基礎基本の定着を図ってほしい。底上げが大切だと考える。児童が、自分の考えをしっかりとって、それを豊かに表現できるような指導に努めてほしい。
- ・自由参観の日に授業を見せてもらっているが、教員も児童も一生懸命に取り組んでいる。パソコン・大型テレビも活用されている。
- ・家庭学習の中の宿題に関しては、同じ学年でも学級によって宿題の内容や量に違いがあるようだ。教員の情報交換や共通理解が大切だと思われる。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・今年度も、学校教育活動のねらいや内容について家庭地域に向けて情報発信を十分行うことに心がけ、両者の連携協力による取り組みの充実に努めてきた。その結果、学校評価全体において、好意的、建設的なご意見ご提言をいただくことができた。これらを真摯に受け止め、次年度以降の学校改善に活かしていく。
- ・きまりやマナーへの規範意識を高めるために、今後も、状況に応じて教員間の共通理解を行い指導の充実を図っていく。併せて、保護者にも家庭での教育について折にふれ啓発をしていく。
- あいさつについては、教職員が率先垂範に努めるとともに、保護者や地域、及び地域学校園の中学校と連携し、継続的に意識の向上に取り組んでいく。また、機会をとらえて地域の方にもあいさつについて協力をお願いする。
- ・今後も、分かる授業の実践、児童一人一人に応じたきめ細かな指導に努め、基礎基本の定着を図っていく。また、自分の思いや考えを豊かに表現させながら、互いの学びをより深め合える授業を展開する。
- 家庭学習については、家庭学習のとらえ方について、保護者及び児童に周知徹底を図り、家庭学習の時間を地域学校園で共通理解をしながら、各自が計画を立てて取り組めるように支援していく。宿題については、学年の教員が十分情報交換を行い偏りのないように努める。